

全労金2014春季生活闘争ニュース第28号

《合意速報No.14》

近畿労組が金庫との交渉を妥結しました！

近畿労組は、3月26日、金庫との団体交渉において、交渉の妥結を確認しました。内容は、①正職員の一時金は、4.1ヵ月＋35,000円（要求は4.3ヵ月）、②準職員の一時金は、0.41ヵ月＋3,500円～4.1ヵ月＋35,000円（要求は0.43～4.3ヵ月）、とするものです。

団体交渉で金庫からは、「今春闘の妥結にあたって、労組の要求からは苦渋の決断をいただいたが、金庫の経営状況等を総合的に判断いただいたものと受け止めている。2013年度は、アール・ワンシステムへの移行というプロジェクトがあったが、職員・組合員の努力・奮闘により、1月5日に無事に移行が完了できた。会員顧客のために使命感をもってやり遂げていただいたことに対して、改めて感謝を申し上げる。2014年度は、第5次中期経営計画の最終年度であり、この間の交渉において浮き彫りとなった課題を労使で克服し、収益構造の改善を図った上で、金庫収益の回復に向けた取り組みを展開することが、会員・顧客の付託に応えることとなる。今後、アール・ワンシステムの安定稼働・定着化を図ることとあわせて、金庫収益の回復に向けて、役職員が一丸となって業務に邁進することを期待したい。金庫の厳しい経営状況については、労使で共通認識に立っており、この難局を労使一丸となって乗り越えていきたい」等の見解が表明されました。

森下闘争委員長は、「今春闘は、決算見通しや経営課題、数値に反映されない職員・組合員の努力や奮闘等を勘案するとともに、近畿労働金庫にとって将来を左右する重要な時期であることを十分に踏まえ、厳選した掛け値なしの要求を組み立てた。金庫経営の厳しさを十分に理解しているところであるが、アール・ワンシステム移行と安定稼働・有効活用への職員・組合員の努力・奮闘に対する評価と期待をカタチに表すことができるかどうか、役職員が一丸となって難局を乗り越えるためのメッセージが発せられるかどうかが大きなポイントと考えていた。そのような意味で、一時金「4.3ヵ月」要求への拘りは強いものがあつたが、近畿労金を取り巻く状況を総合的に判断し、満額ではないものの、苦渋の思いで妥結を決断した。労働組合は、金庫を取り巻く状況や逼迫した職場状況も踏まえ、早期に円満な解決を図るスタンスで交渉に臨んできた。金庫の回答については、職員・組合員の努力・奮闘に対する評価や期待が含まれたものとして、真摯に受け止めたと思うが、一方で、今交渉において明らかとなった問題・課題については、今後の協議で十分論議を尽くしたいと考える。昨日の団体交渉で、理事長から『労使は運命共同体』というコメントがあった。労使双方の役割と責任を果たし合うとともに、相互理解と協力の精神を基調として、広い視野から話し合うことによって、問題・課題の合理的・平和的解決を

図っていきたい。そして、適度な緊張感と距離感を持ちながらも、信頼できるパートナーとして対等な立場で協議していきたい。近畿労働金庫に働くすべての職員が、さらに「働きがい」を感じられるような物事の進め方や環境・風土を労使双方で知恵を絞り合いながら整えていきたい」等の見解が表明されました。

なお、単組は、①アール・ワンシステム移行と安定稼働・有効活用への職員・組合員の努力・奮闘に対する評価や期待が表明されたこと、②組合員ベースでは昨年実績を上回ることができたこと、等から交渉の妥結を判断しました。

*合意単組：12単組（3月26日16時10分現在）

静岡・北海道・北陸・中央・中国・セントラル・東海（金庫・関連）・四国
長野・新潟・九州（金庫・関連）・近畿（金庫）

以 上